

早稲田大学 大学院教育学研究科 出題意図および解答例

年 度	2027年度
試 験 日	2026年9月19日
研 究 科	教育学研究科
課 程	修士課程
専攻・コース等	学校教育専攻
入 試 制 度	特別選考制度
試 験 科 目	小論文

出題意図及び解答例（解答のポイント）

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

教育実践の経験を基盤として、教育現場の課題を理論的に整理・考察し、論述できる力を評価・判定する。

■解答例（解答のポイント）

問題

※特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。

解答のポイント/評価のポイント

- (1) いわゆる「高校無償化」政策について正しく理解し、教育の公共性等の観点から適切に論じられているかどうかを評価した。
- (2) 学習指導要領の改定（改訂）間隔に関する仮想例の考察を求め、学習指導要領と不可分な事項（教科書検定、移行措置、入試など）の理解について評価した。
- (3) 社会教育法（1949）の目的・理念について、戦後民主主義の形成との関係を踏まえて理解しているかを評価した。また、市民の自主的な学習を保障する公共制度としての社会教育の意義や、社会教育施設・行政の役割について、公共性・民主主義の観点から論理的に論じることができるかを評価した。
- (4) 大人の学び直しが注目される社会的背景を理解したうえで、学び直しの機会に格差が生じる要因を捉え、その背景にある社会的条件と課題を、教育社会学または高等教育論の観点から論理的に論じることができるかどうかを評価した。
- (5) インクルーシブ教育システムの定義と日本型の枠組みを押さえたうえで、特定の学校種を文脈化し、その学校におけるインクルーシブ教育の意義と人的・物的資源、支援体制、保護者理解などの課題を挙げ、交流・共同学習や合理的配慮、専門家チームとの連携など具体的な取組例で裏づけて論じることが評価の中心となる。
- (6) 心理的安全性を正しく理解し、専門職としての知見を活かしながら、その定義及び心理的安全性が児童生徒の学習や仲間関係に及ぼす影響について適切に論じられているかどうかを評価した。

(7) 初等中等教育における「探究的な学び」について、「探究」に関するこれまでの学習指導要領やその改訂に向けた議論や学術研究等における動向等を理解したうえで、自身の教職経験をふまえて、適切かつ具体的に論じられているかどうかを評価した。

以 上